

2019年度学校関係者評価委員会 議事録

日時：2019年6月3日(月)18:00-19:00

場所：大阪医療福祉専門学校 10階 1001教室

司会：鈴木 操

書記：林 亜遊

外部：三原 修（業界代表）、勝元 伸二（業界代表）、中山 哲也（高校関係者代表）

島袋 美紀（保護者代表）、田中 幸恵（近隣関係者代表）

*欠席者：湖崎 淳（業界代表）、段上 靖治（業界・卒業生代表）

内部：橋本 勝信（常務理事・学校長）、赤松 滋子（事務局次長）、岸村 厚志（教務部長）、

鈴木 操（教務部長）、平木 たい子（視能訓練士学科グループリーダー）、

林 亜遊（教務課長）

1. 開会の辞

鈴木教務部長

ただ今より2019年度の学校関係者評価委員会を開催いたします。

2. 学校長の挨拶

橋本学校長

本日は、2019年度の学校関係者評価委員会にご参加頂きありがとうございます。お忙しい中、お時間を取っていただきありがとうございます。この委員会は、学校の自己点検、自己評価を基に学校関係の委員の方々に意見を賜ることが大きな目的でございます。そしてその意見を学校改善に向けて使いながら手続きを踏んでいく作業でございます。ぜひ忌憚のないご意見とそしてこういうことを行われたらいかがかというご意見を賜ることができましたら、大変うれしく思いますので、ご審議の程お願いいたしまして学校長の挨拶とさせていただきます。よろしくお願い致します。

3. 平成30年度自己点検・自己評価内容説明

岸村教務部長

自己点検自己評価について説明させていただきます。事前に送付させていただいた資料に比べ、少し見直しさせていただいておりますので、本日配布分を最終版として考えていただけたらと思います。

まず教育理念（1-1）に関して、前は3点でしたが、④の学科毎の育成人材像をホームページに公開いたしましたので4点とさせていただきます。続きましては、学校の特色（1-2）ということで、前回と同様の3点という評価になっております。残念ながら一部の学生の行動に対して地域の方々にご注意を頂くこともありますので④の項目が達成できていないということで3点としています。将来構想（1-3）としましては、教職員に公表しているかという点で、年度毎に公表していますが、教職員が十分把握しているかどうか十分ではないと考えましたので前回同様とさせていただきます。

続きまして、運営方針（2-4）に関して、昨年同様教職員研修で学校責任者から発表しており4点とさせていただきます。事業計画（2-5）に関して、昨年は将来構想に近づけるための計画になっているかという点で減点をしておりましたが、本来事業計画自体将来構想を想定しているものであり、

今年度は4点とさせていただきました。運営組織や意思決定機能(2-6)に関しては、連絡網などLINEなどを活用して教職員が即時に対応できる体制を作っておりますので4点とさせていただきます。人事や賃金での処遇(2-7)に関しては、勤怠システムや人事評価システムなどシステム化されております。意思決定システム(2-8)では、③教職員から意見が吸い上げやすい環境が設定されているかという点に関して、学校運営は、各種委員会において運営されております。その委員会の場で意見を集約できる体制も出来ております。④学生からの意見が吸い上げられる環境が設定されているかに関して、授業料中心であるが、玄関に「なんでも相談BOX」を設置しました。情報システム化(2-9)、サイボウズの導入などペーパーレス化を図っていますが、検証できるシステムが充分ではなく、今後休日出勤や残業について比較検証していきます。

業界の人材ニーズ(3-10)に関して、教育課程編成委員として、業界の方々では協会の理事や府の職能団体の会長などに参画いただいております。業界の人材ニーズが早期に把握できる体制は整っていませんが、④変化する業界人材ニーズに対応できるシステムがある。という点においてシステム化までされていないため3点とさせていただきます。教育到達レベル(3-11)に関して、各学科のディプロマポリシーの妥当性の検証するまでできておりません。カリキュラムは体系的に編成されているか(3-12)に関して、カリキュラムマップの統一がされておらず、公表されていない状況です。科目の位置づけは(3-13)講師間の情報の交換がまだ不十分で、シラバスを見ればわかるが、確認が不十分であります。キャリア教育(3-14)では、4点をつけさせていただきます。授業評価(3-15)では、中間評価・期末評価を実施している。教員の確保(3-16)法定人員に対して厳しい学科もあるが、確保にできておりますので4点をつけております。成績評価・単位認定の基準(3-17)は、明確であり、公表しております。資格取得の指導體制(3-18)に関して、基準はクリアしておりますが、国家試験状況で厳しい学科があります。

就職率(4-19)は、常に100%であります。資格取得率の向上(4-20)では、模擬試験や定期試験のPDCAに基づく実施に課題が残ります。成果に結びついていない学科があります。退学率の低減(4-21)について、いろんな策を実施しています。定期的な面談・生活リズムをチェックして、担任・ゼミ担当者が確認しています。専門学校生に対処するレベルかという話もあるが、基本的対策として実施しております。卒業生・在校生の社会的な活躍(4-22)について、昨年度も同様完全に把握できていません。卒業生の学会発表などであれば抄録で確認できますが、その他の活躍は把握できるシステムは整備されていません。

就職に対する支援体制(5-23)は、整備されています。学生相談(5-24)に関しては、専門員による相談体制もあり、担任もカウンセリング研修を受けております。学生の経済的側面に対する支援(5-25)ファイナンシャルプランナーが相談に応じていたが、結婚退職しており、現在は有資格者がいない状況です。健康管理の体制(5-26)に関して、受診率・再受診率ともに100%で組織管理体制があるといえます。課外活動(5-27)に対する支援体制は、昨年度は、③クラブ活動の発表の場がある。という点で減点していましたが、ゴスペル部は入学式・卒業式で、軽音楽部も施設での発表やメディカルトレーナー一部も卒研で発表しているため4点をつけています。

学生寮等の支援(5-28)では、24時間セキュリティシステムがあるについて×をつけました。学校の入場・退場に関して名札をつけるように義務つけているが、徹底ができていないためです。学生寮等という項目ですが、しっかりと学内でも対処できますよう×をつけています。保護者との連携(5-29)に関しては、保護者会の開催や担任から適時連絡しています。卒業生への支援体制(5-30)では、年2回の郵送物、図書室・キャリアセンターの利用可能、同窓会組織、セミナー開催実施しています。

施設・設備の整備（6-31）に関して、③文献検索ができる環境が整っています。という点に課題が残っています。ネットで検索できるシステムを導入したいと考えています。学外実習・海外実習（6-32）に関して、学生全員に同レベルの実習地の確保ができていているという点で減点しています。防災に対する体制（6-33）では、昨年度の減点項目であった非常食 700 食分整備をしましたので緊急時に対応できる体制ができたと考えております。また AED を整備し、講習会も教職員が全員受講できるように開催しています。

学生募集活動（7-34）は、募集定員に関して、7名不足ということで3点としています。学生募集活動で、教育成果（7-35）が伝えられているかでは、それぞれの項目において適正に行われていると考えております。入試の選考基準（7-36）に関して、募集スケジュールを明記して、判定基準を明確にしておりますので、適正に行われていると考えております。学納金（7-37）に関して、年度途中の変更もなく、問題ありません。

財務基盤（8-38）は、滋慶全体の財務が関わっており問題ありません。予算・収支計画（8-39）は、問題ありません。遠方実習地をなくし、費用を軽減しています。会計監査（8-40）に関して、大阪滋慶学園としては、文科省監査も受けておりしっかり対応しています。財務情報公開（8-41）の体制整備はできており、ホームページに掲載しており問題ありません。

法令・施設基準（9-42）に関しては、遵守しています。個人情報（9-43）に関して、教員、外部講師が個人情報の取り扱いに関してテストを受けています。学生が実習地で個人情報の取り扱いに不備が生じている案件がありますが、その際も適切に対応しています。自己点検・自己評価（9-44）の実施と問題点の改善に関しては、適切に行っております。自己点検・自己評価の公表（9-45）に関してもホームページにおいて公開しております。

社会貢献（9-46）では、ことばの相談室をはじめ、近隣地域で転倒予防教室を開催、オープンセミナーを定期的で開催しております。学生ボランティア（10-47）では、振り返りシートを有効に活用しており、実績を記録に残しております。

国際交流（11-48）卒業後に海外で活躍するために専門職情報を常に取得している。という点を今回は、×にしました。理学療法士学科では、一部実施できてはおりますが、不十分かと思えます。海外の留学生を本年度は、診療情報管理士学科で受け入れております。また、例年ではございますが、上海中医药大学の短期研修生を今年度は30名受け入れる予定でございます。以上でございます。

4. 2019年度重点項目説明

赤松事務局次長

みなさま、本日はありがとうございます。

2018年度の振り返りからさせていただきます。

重点目標1つ目は、職業実践専門課程における認定要件について、病院等と連携して質の保証・向上に対してより効果的な先進的取組の推進を目指すというものです。この中で指定規則の改訂に伴いまして、特に理学療法士・作業療法士・言語聴覚士では、臨床実習中に午後からまとめる時間を取っていただくようにすすめさせていただいております。診療参加型実習(CCS)に基づいた実習に近づいています。教員に対する業界の皆様からのセミナーや講習を開けておりません。今年は、学内のFDSD委員会で企画しまして業界から教員に対する研修を行い勉強していきたいと思っております。

2つ目の学生募集ですが、335名の目標に対して、7名不足の98%となってしまいました。理学療法士学科、作業療法士学科、視能訓練士学科1、3年制は達成させていただきましたが、言語聴覚士学科・

診療情報管理士学科でショートしました。全体を見ますと-7名でした。原因としましては、言語聴覚士学科は大卒課程であるため、大学生の就職が良好で就職決定による辞退が多く出ました。また、診療情報管理士の認知度の問題や、名前が堅いということもあり、内容がわかるようなホームページに変えていきたいと思います。

3つ目の退学率では、全学年通じて40名の学生が辞めてしまわれました。1年生が21名その中でも視能訓練士学科1年制は7名も退学しました。これを除きますと14名ということになります。2年生全体では、17名退学しました。今回2年生が辞める学生が多く出ました。最終学年は2名しか退学がありませんでした。この2名の学生は、メンタル面の問題で休学されていた学生さんで治療に専念するため退学されたということで、最終学年では、臨床実習や国家試験対策などが充実していたので退学者が出なかったと思います。問題は中間学年と社会人の退学をどう対応するかです。授業の改善が一番だと考えております。90分パワーポイントだけでの授業は興味をなくしてしまいます。人が集中できる時間は20分が限界と言われているので、演習などを入れて明日も受けたいと思っていただける授業の展開に努力している状況です。iPadを45台購入していますので、それを活用したり、最近では授業が始まるとスマホを片づける時代から、出して調べる時代が変わってきています。これをもって中間年次の退学を減らしていきたいと思います。

4つ目の学費は、すべて支払っていただきました。

5つ目の国家試験では、作業療法士学科が残念な結果でした。合格率72.6%であり、責任者として大反省しています。これまで各学科での対策でしたが、視能訓練士学科の合格率が常に高くシステムができていますので平木チームリーダーが入り、全学科に波及させるために新たな取組をしています。診療情報管理士も試験内容が変わりましたので合格率の低い状況でした。国家試験不合格であった学生さんたちにも部屋を確保して、現在サポートさせていただいておりますので、来年の国家試験を頑張りたいと思います。

6つ目の就職率は、第一専門職に希望者全員が就職しています。

7つ目の教員の更なる資質の向上ですが、後程お話しするワーク・ライフバランスと関連していますが、働き方を工夫しています。大阪医療福祉専門学校では1人あたりの月平均残業時間が4時間となっています。シフトが9パターンあるため、シフト変更して残業を減らすことができます。そういったシステムを活用し、修士課程に進学している教員がおりまして、学会発表も1年間で30件発表いただいておりますので、もっともっと推進するためにもシフトをうまく活用していきたいと思います。

8つ目の業務効率の更なる整備ですが、シフトの有効活用や学生のカルテシステム(SIP)の有効活用により、学生情報の共有化を図ること、また教職員にサイボウズを取り入れて、全員の予定を確認できるため、受付でも確認ができるようになりました。これによりまして、職員を探す内線電話が減って効率化につながっております。ストレスチェックでも高ストレス職員は0ということでしたので、これを維持できるようにしていきます。

9つ目の学生による授業評価は、Jクリッカーによる授業アンケートをしています。意見を抽出して、回答を記載したものを、掲示板に貼り出しております。

10番目の卒業生の社会的活躍及び評価を把握するとともに、支援体制を強化する点に関してですが、なかなかこれが、うまく集約できていません。まずは、卒業研究を学生と教員の共同研究にしまして、これを長期に亘って実施していくことで、働きかけていきたいと思います。今、共同研究を始めかけたところになります。

11番目の施設、設備に関しては、校舎が建って17年経過しています。トイレの改装、壁の改装、空

調を4階から10階まで交換しました。2020年は1階から3階の空調を交換する計画です。

12番目のインフルエンザ・ノロウイルスの件ですが、国家試験の時期にインフルエンザが流行る時期になります。2017年にプラズマクラスターを導入しました。そうしましたら、乾燥を訴える学生もいました。今年は空調を換えましたので、様子を見て必要なら加湿器を導入したいと思います。

13番目の避難訓練に関しましては、火災訓練を10月29日に実施しました。6月に予定していました地震津波を想定した避難訓練は、雨が降りましたため、非常階段での避難が危険なため休止しました。学校では年1回は避難訓練が必須になっております。1回は行いましたので問題はないと考えております。2019年度は、避難方法が違いますので両方行いたいと考えております。2018年度AED講習は8月20日に行いました。2019年度も実施予定です。

2019年度計画に関して

2018年の結果と同時にお話しをさせていただきましたが、1番目の教員と業界との連携をもっと深めたいと考えております。

2つ目の学生募集の達成のために視能訓練士学科1年制課程の定員を35名に、診療情報管理士学科の定員を30名に減らしました。そのため、定員が全体で310名になりました。適性AO入試のエントリーの様子を見ていますと、今年は達成できるのではないかと考えております。

3つ目の、退学率は、先ほど申しましたように、授業の改善が第一と考えております。

4つ目の学費に関しましては、完納・100%を見込んでおります。経理担当者は女性で、相談しやすい体制ときめ細かい対応ができていると思います。教員には相談しにくい場合もあると考えております。

5つ目の国家試験資格取得率の一層の向上ですが、まずは作業療法士学科の国家試験合格率を上げるのが急務であり、学校一丸となって取り組んでおります。

6つ目の就職目標ですが、十分な求人をしていただいておりますが、ほんの少しリハビリ関係の求人が減ってきておりますので、今後「本学から採用したい」と言っていただけるような取り組みを危機感をもってしていかないといけないと考えております。

7つ目の教職員の更なる資質の向上ですが、学ぶ時間が必要ですので、ワークライフ・ラーンバランスに取り組んでおります。

8つ目の業務の効率化としてペーパーレス会議を実施しています。どのように業務の改善が進んだのか計る物差しがないので作っていきたいと考えております。

9つ目は、学生による授業評価ですが、これは先ほどお伝えしたようにJクリッカーを用いて進めていきたいと考えております

10番目は、全学同窓会を活発に行っていますが、卒業生の社会的活躍、参加する卒業生が決まっています。卒業生の表彰など、多くの卒業生に参加してもらいたいと考えております。

11番目の施設、設備では、空調の取り替えを行っております。2021年には外壁工事も予定しています。大阪医療福祉専門学校の経営は健全でございますので計画的に修繕ができる費用は積み立てております。

12番目のインフルエンザに関して、まず注意をしておりますが、ワクチン接種以外のインフルエンザの感染などなかなか防げない状況です。より一層注意喚起してまいります。

13番目の防災体制に関しては、火災の避難訓練を6月21日、地震の避難訓練を10月28日に予定しております。AED講習を8月19日に予定しております。3日分の食事と毛布のセットを備蓄しましたので、899名の学生に対して、昼夜重なっても700名分に対応できるかと考えております。

まだまだ足りていないのが教員の資質の向上のための施策だと思います。教員が臨床の場から離れて時間が経ち、過去の経験で授業をしております。研修の制度は、滋慶学園でも、大阪滋慶学園でも整っております。しかしこれだけでは教育の研修で終わってしまいます。臨床の場での経験は重要であり、業界の先生方に教員の研修を受け入れてもらえるシステムを構築していきたいと考えております。よろしくお願い致します。2018年の重点課題に対する結果と2019年度の課題についてお話をさせていただきました。ありがとうございました。

5. 質疑応答

(三原委員)

①資格取得の指導体制は4点評価ですが、資格取得の向上が残念ながら作業療法士学科が悪かった。学校の使命は基本的に国試合格だと思うんですね。原因は何だったのですか。

(岸村教務部長)

作業療法士学科では、評価学年が実習に行く時期に、評価実習対策班と国家試験対策班を分けていました。国家試験対策班の職員が結婚と出産のため1名退職、1名休職となってしまいました。その不足分を補いきれませんでした。分業にして頼り過ぎていました。

(赤松事務局次長)

これまで各学科で国家試験対策の取り組みがばらばらでした。垣根を取っ払い、国家試験の共通の対策ができる体制を整えたいと考えています。

(三原委員)

結局、学校評価では、そこしか(国試)見ないと思います。いい体制を作って、すごいことをしていても、この数字が出るとポンと消えます。そこを考えて体制を作っていないと、どれだけ素晴らしい取組をされていても表に出てくることはないと思います。

(赤松事務局次長)

痛感しております。

(三原委員)

ちなみに今年の学生の偏差値は変化があったんですか。

(赤松事務局次長)

あまり上下はないと思います。

(三原委員)

そこだけは力入れていただいてがんばってもらいたい。具体的に取組んでもらえれば。

(赤松事務局次長)

痛感しています。今年1年がんばっていきます。がんばりましょうという掛け声だけではダメなので、成長していけるシステムを作っていきます。今後の国家試験は難しくなっており、問題の文章が長くなると途端に点数が下がります。試験が終わってから解けば簡単な問題であることも多かったです。不合格の学生も毎日学校に来ています。専任の教員をつけて一生懸命指導していますので、来年良い報告ができるように頑張ります。

(勝元委員)

卒業生への支援体制(5-30)の「表彰制度」とは、どのようなものですか。

(岸村教務部長)

ポイントカードを発行して、学術活動、学会発表など申請に応じてポイントを付与してくシステムです。定期的に勉強されている方にポイントを付与し、学術活動を促進しています。

(赤松事務局次長)

表彰状を渡した方が職場に飾ってくださっている方もおりすごうれしいです。

(岸村教務部長)

卒業生が、みんなが欲しいかという課題が残る状況です。同窓会に参加してくれている方が決まってきたので、促進していきたいです。

(勝元委員)

学校行って、資格取得して、就職するとそこがゴールになりかねない本人の問題もあると思いますし、職場にも問題があるかもしれません。そこからがんばる意識を持つことが難しい、こういう形で支援してもらえると良いと思います。教員の先生が学会発表 30 件もされているということでしたが、診療情報管理士学科では活発に発表しているイメージがないですね。診療情報管理士学科の資格試験結果が低かったのは制度が変わったところがすごく大きいのですが、職業として、目指すべきところ方向性が多様化してきているところもすごく感じています。医師事務作業補助者であったり、医療情報技士であったり、症例登録であったり、幅広くなった場合に、教員が積極的に学会に参加してもらい、積極的に発表してもらおうと、先生が発表していると参加したいなと思う、そこから向上心を持たせたい。こういったところに力を割いてもらえると現場もありがたい。採用して、そこがゴールで、こんなはずでなかったということにもなりかねない。同じ 5-30 のところで、理学療法士学科と診療情報管理士学科で平日セミナーは学校では手薄になる。いい取り組み、なかなか続かない。参加人数が少ない。全学対象の取り組みもよいと思います。学科に特化した勉強。職場に出てから、学校では手薄、職場ではなかなか聞けない。充実して教育できる。そういった点を継続してくれると現場としてはありがたいです。

(中山委員)

高校現場から、4-21 に関して、適性 AO 入試が始まっているようで、本校の学生も AO 入試や指定校推薦など始まっています。早く進路が決まってしまうとその後勉強しません。たとえば指定校で良い成績で入学しても入学後に一般で入った学生に逆転されてしまう話も聞きます。入学前にプレカレッジを実施していただき非常にありがたい。本学講師が大学で物理を教えており、系列大学で教鞭をとられているが、目標を持って入っている分強いと言っておりました。目標を維持できる力を資格取得に向けて、クリアして欲しいとハードルを設定して欲しい。学び続けて欲しい。それをお願いしたい。募集人員に関して、高校も給付型奨学金が今年から人数が増えている。これを機会とねらっている大学もある。これをチャンスとしている。危機感をもってもらえれば。

(赤松事務局次長)

シラバスも全 630 講義分公開させていただきました。(給付型奨学金の) 準備して頑張ります。

(田中委員)

地域からお話しします。取り組んでいることすばらしい。地域では、高齢者食事サービスのときに、尿漏れ予防体操などをしてもらっています。すごく喜んでいきますので、またして欲しいです。地域では高齢者が多いので若い方と防災訓練を一緒にできると地域としてはありがたいです。

(島袋委員)

入学式も参加させていただいて、多くの方が医療の道に進まれます。滋慶学園に入学させて本当によかったと感じております。学生たちに、今すべきことを伝えて欲しいです。国試の合格率の話聞いて驚いています。学生たちにも、医療人としての自覚を芽生えさせて欲しいです。今すべきことを伝えて、自分たちでもできるようになって欲しいです。今回のように先生方に何かあったから合格率が下がるというようなことでは困ります。保護者としては悠長なことを言っていられません。

6. 学校関係者評価実施に関する説明

林教務課長

本日は大変ありがとうございました。私の方からは、今後の学校関係者評価に関するご案内をさせていただきます。委員の皆様のお手元には、自己点検・自己評価と学校関係者評価の報告書が配られております。右側にお名前を記載の上、評価の基準1~4点でつけていただく部分とコメントを頂戴する部分がございます。大変恐縮ではございますが、こちらご記載の上6月末までに本学までお願い致します。またデータでの入力希望の方は岸村までお願いいたします。

7. 閉会の辞

鈴木教務部長

本日は貴重なご意見・大変参考になるご意見を賜りまして本当にありがとうございます。お忙しいところそしてお暑い中、お越しいただきましてありがとうございます。それでは2019年度学校関係者表会員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上